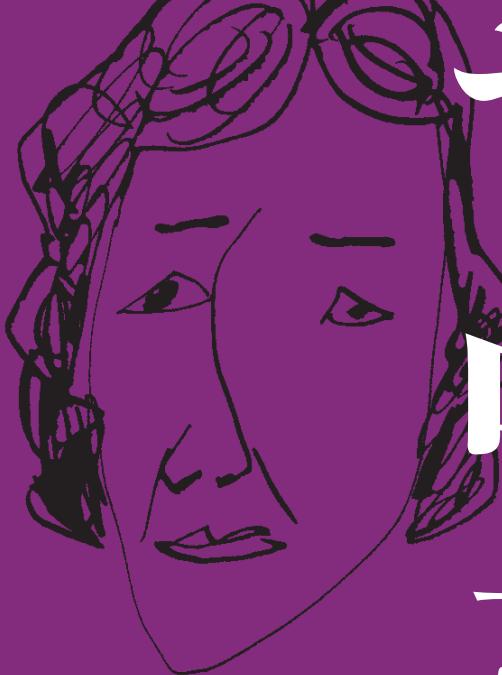


ザ・中之島ブルース。



月刊 島民

中之島

Vol.5 2009 12/1

内山田洋
ケーラーファイア

橋を渡る人の「街事情」マガジン



嗚呼、ビル地下飲食街。

島周辺には地下が飲食街となっているオフィスビルも少なくない。変わらぬ老舗が守る地下や、新旧の立ち飲みが並ぶ地下。それぞれがひとつの街のようで、その雰囲気はビルによって千差万別だ。

取材・文／松本賢志

◆第一幕 住友生命淀屋橋ビル 「ときめき通り」に、 胸ははずむ。

ビル地下飲食店の手招き代わりといえば地上に掲げた看板。小さながらもパンチの効いた店が並ぶ、淀屋橋ホワイトビルの看板に「ビール100円」「たこ焼き100円」などの張り紙を見た。どうやらビル地下酒場は戦国時代のようだ。

真っ先に目指すは住友生命淀屋橋ビルの地下、その名も「ときめき通り」だ。なんと胸ははずむ名前なのか。階段を下りると、[遊魚]に掲げられた「魚は天然にかかる！」の看板が目に飛び込む。海の如き青いTシャツのスタッフと威勢のイイ女将さんにときめきながら暖簾をくぐれば、おすすめ鮮魚が置かれたテーブルの向こうに広がっていたのは、街の大先輩たちのゴキゲン模様だった。聞けば「店は25年前からほとんど変わってない」のだとか。ここは大先輩たちが最前线でしのぎを削っていた頃を思いだせる、数少ない地下街なのだ。変わりゆく街の下には変わらない店と人の光景があった。



遊魚 天然の魚介類で飲める海鮮居酒屋。まずはアテ1品と生ビールで680円のセットを。本まぐろ3種盛り1,280円。☎06-6232-2288 11:00AM～2:30PM 5:00PM～11:00PM 日・祝休(土曜の夜は予約があれば営業)



軽すぎず、落ち着きすぎず。
これくらいが「気が利いている」。

大辻茂雄さん
大阪国際会議場取締役営業部長

大阪国際会議場で行われる会合の企画・運営に携わる。新しくできた中之島線への期待は強く、「12月9日には開通記念コンサートを行います」。
<http://www.goo.co.jp/japanese.html>

女将さんが福岡の出身で、博多料理が一つ一つ美味しいというのも理由だけど、やっぱり島界隈気が良いのが一番。駆けがしくないし、程良く花があるでしょう。同僚や、お客様でも気を張らないで済む方と来るのにちょうど良いんです。お連れする前に「居酒屋なんですよ」と言っておいたらすると、余計に気が利いているように思つてもらえる。单身赴任で博多に住んでおられた経験のある方にも喜んでもらえたりして、こちらも鼻が高いです。

この店には小学校時代の同級生に連れてきてもらったんですよ。以前、本町の商社に勤めていた頃は、中之島と言ふと中央公会堂のあたりのイメージしかありませんでした。だからこうして会社から歩いて来られる場所で飲めるというのは嬉しいことですね。筑前橋のたもとで博多料理というのも風情があるって？なるほど。でもそれは気がつかなかつたなあ（笑）。



(左) 大辻さんたちが「女将さん」と呼んで慕う坂本さん。栄養士の資格も持たれている。(右) 物のがめ煮こと筑前煮。料理の材料は毎朝、島の対岸にある中央市場で仕入れる。



にちげつ
博多酒菜 日月あん
博多の家庭料理がメインの和食。橋のすぐたもとにある小さな入口を上ると、意外ややゅったりとした空間に驚く。ソファのテーブル席のほか、カウンター、小上がりもあるので人数の融通も効く。がめ煮500円、からし蓮根700円、生ビール600円。☎06-6444-0277 5:00PM～11:00PM 土・日・祝休

その理由。 島で飲みたし

島民が

ホテルのバーから川面にオレンジの灯りを映す居酒屋まで、中之島界隈の酒場には、それぞれ通いたくなる雰囲気がある。ならばその理由は何なのか。島民に聞いてみた。

取材文／大迫力 松本創(兵に本誌)



とにかくメニューが豊富。晩ご飯もしつかり食べられます。

OMMビルの地下は、オフィスから昇る夜もよく来ます。「天衆割烹」とか「麺酒場」とか、それぞれにいろんなジャンルを謳つてるのが面白いです。この「伏水亭」もさうで、

入社2年目なんとか手真の出身。現在は広報宣伝を担当。中之島線のPRに連日奔走している。読者のメッセージを聞けばもちろん「中之島線にに乗車を!」。

京阪電車広報宣伝担当 馬渕勝久さん

北新地パトロール報告。

今号のパトローラー／東天ボール サラリーマン兼業のアマチュアマジシャン。趣味は北新地ウォッチング。

季節は冬に向かう北新地。寒いのは気候ばかりでなく、働くホステスも、楽しむ客もみんなが「寒い」今年の北新地のようである。

「何といっても悲痛な同伴要請のメールが多くなりました」とは、北新地歴15年の会社経営者氏。同伴システムは早い時間に客の誘導ができ、店にとっては回転数を上げる最善の方法だ。悲痛なメールを出す方である、老舗クラブ勤務6年目、26歳のホステスA娘にも話を聞いてみた。「お店からのノルマがすごいんです。こなさなかったら罰金で一日分の日給消えたりするし、こっちも必死ですよ」。

パトロール中に気づくのは、一人で飲む客が増えたこと。つい数年前までは、羽振りの良い企業などは社長からヒラまで、大人数でクラブ独占なんて光景も見られたのだが、最近はとんと見なくなった。ひとえに接待費という経費が皆無となった事がその原因のようだ。先ほどのA娘からは別の証言も飛び出した。「抜きモノが極端に減ったのが痛いですね」。抜きモノとは、シャンパンやワインといったキープボトル以外のオーダー。客数は同じでも一気に売り上げを上げるチャンスもある。因みに有名なドンペリは、クラブで飲むと7万～10万ほど。「派手なお客を持ってたホステスなんて、今が運命の分かれ道じゃないですか」とも。どの店も今が耐え時、といった感のある最近の北新地なのである。

◆第二幕 京阪淀屋橋ビル 公会堂に背を向け、「味街道」へ旅立つ。

土佐堀通の南沿い、中央公会堂が見えてきたなら、「味街道」への階段はその辺り。淀屋橋＆北浜の両駅を結ぶ通路に直結してゐるうえに立ち飲みも2軒。チョイ飲み派にこれ以上の地下街はない。

まずは階段下りてすぐの「言い成り」へ。今年5月にオープンしたての超新星で、店主の西



田拓馬さんは若干23歳。恐らく街道最年少だろう。懐かしいアニメソングを聞きながら駄菓子で一杯。店に溢れる昭和だらけのディテールも十分なアテ。



それでも斜め向かいの「ききょう」のガラスに描かれた立ち飲みシルエットは心をくすぐる。同化しようと暖簾をくぐると店主の奥山さん夫婦が笑っていた。短冊メニューの中心価格は290円と激安ながら、どれもしっかり手作り。開店から1時間

も過ぎればダークダックス体勢で飲まなければならないこともしばしば。うっかりゴキゲンが加速したとしても、

地下街各店は終電前が閉店時間なのでご安心を。帰ろうとすると、京阪改札前の「NEXT-1」で3個200円の安売りコロッケに出会えることも。家

での2回戦にはコイツが欠かせないんだよなあ…。さあ、明日はどうの階段を下ることにしようか。

言い成り 板前歴5年の腕から繰り出されるアテは全て300円均一と、店主同様オトコ前価格。昭和な駄菓子も食べ放題で300円。健康スリッパ完備でヒールの女性客も安心! ☎06-6223-1202 4:00PM～11:00PM 日・祝休



ききょう メニューには自家製の焼き豚など、ご主人が中央市場で仕入れた素材を使うアテがズラリ。本日の造りも350円と破格。ハイボールはシッカリ濃いめで210円也。☎06-6203-0800 5:00PM～11:00PM 土・日・祝休



初めて来たのは友人の結婚式の2次会でした。披露宴から少し時間があって、次「なんでかな?」と思っていたのですが、窓からの夜景を見たときに、「なるほどこれを見せたかったのね」と納得しました(笑)。それ以来、友達とご飯を食べた後とか、ゆっくりお喋りしたい時によく来ます。ただ、夜景が売りと言つても「地上20何階」とかじゃなくて、7階っていうのが良いでしょ。下を歩いている人やクルマにも何となく手が届きそうというか、ホテルのスカイラウンジみたいに大層ではないので気軽に来られます。梅田とかだと7階くらいでは、とてもこんな景色は見られませんよね。これも中之島が川沿いにいることの効用かもしませんね。



大層じやないのが良い。 株式会社メタルワン建材 大崎美香さん

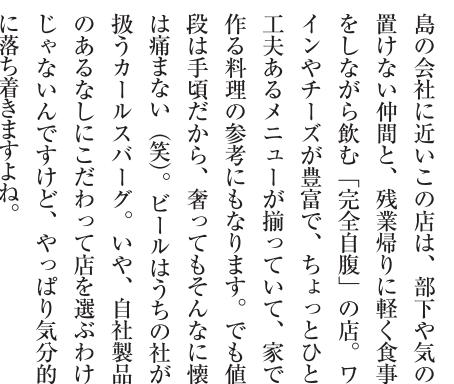
坂の自宅から中之島西部にある三井ビルディングのオフィスに通うO島民。大阪市内の数社で働いたことのある経験からすると、中之島の印象は「良くも悪くも旧き佳きオフィス街」(笑)。秋徹空先生のファンでもあるそ。

島の会社に近いこの店は、部下や気の置けない仲間と、残業帰りに軽く食事をしながら飲む「完全自腹」の店。ワインやチーズが豊富で、ちょっとひと工夫あるメニューが揃つていて、家の作る料理の参考になります。でも値段は手頃だから、奢つてもそんなに懷は痛まない(笑)。ビールはうちの社が扱うカールスバーゲ。いや、自社製品のあるなしにこだわって店を選ぶわけじゃないんですけど、やっぱり気分的に落ち着きますよね。



タンポポ

「世界のワインとチーズ」を掲げる鉄板焼店。薄揚げのカマンベール包み焼き650円、大根ステーキ750円などひと匕ニリあるメニューが抜群のアテに。小説の表紙を手掛ける奈路道程氏の壁画(上写真)が、島民のナイトライフを彩る隠れ家店。☎06-6344-2888 6:00PM～0:00AM(土曜～10:30PM) 日・祝休



完全自腹で楽しんでます。 佐藤友美子さん サントリー文化財団上席研究フロー

故・佐治敏三氏の肝煎りで設立され、今春惜しまれつつ解散した「サントリー次世代研究所(旧・不易流行研究所)」の所長を長年務めた。まちづくりや若者の労働をテーマに研究を続ける島の文化人。



島で見つけた おつまみコラム

中之島で見つけた酒場やお酒のつまみになる話。

これから始まる忘年会や新年会シーズン、
島民の方々にはぜひとも酒席で披露していただきたい。

取材・文／若狭健作

松本創(共に本誌)

日本初のビアホールは
中之島で生まれた。



明治30年（1899年）、大阪麦酒会社（アサヒビールの前身）が夏だけの特設ビアホール「旭ビール會」を中之島公園にオープンした。その2年後には、日本初となる本格ビアホール「アサヒ軒」を大江橋の南詰（現在の市役所付近）に開店。「ビーフシチウ」や「ビーフカツレツ」といった洋食メニューを出し、氷室生ビールを大コップ18銭で飲ませる店は仕事帰りの島民で連日大盛況だったという。アサヒビール資料室によると明治43年頃には一度閉店したと推測されるが、昭和11年には「アサヒビアハウス」と名前を変え梅新交差点で再開、現在も【アサヒースーパードライ梅田】として営業を続ける。



名酒場を語る
名マガジンがあった。



北浜で見つけた水辺感あふれる店名、「釣茶屋 濁」。年季の入った看板に「昔、土佐堀川に釣り船を出していた由緒ある店か」などと勝手に想像しながらお店を訪ねた。煮付けの香りを漂わせ出てきたご主人、三好道夫さん（73）。「うちは40年前からずっとここ。釣り船? そんなんあらへん」。以前は喫茶店だったが、釣り好きが高じて25年前に魚料理店へ改装したところ、「釣りに行く暇もないほど忙になった」のだと。昼休みには煮付け、造り、焼き魚から選べる定食（900円）を求めるビジネス島民が列を作る。夜は「絶対うまいで、そらばっぺた落ちるわ」とご主人自慢のクエ鍋（破格の一人前4000円）をつき、窓から見える中央公会堂を眺め、一杯やりたい店であった。



釣茶屋 濁
☎06-6202-4172
11:00AM～1:30PM
5:30PM～10:30PM（入店～9:00PM）
日・祝休（土曜は予約のみ）

「もうこれ以上忙しなるのはかなわんのや」と苦笑い。



「こんな器で一杯飲みたいなあ」と見とれるほど美しい酒器を集めた企画展が、東洋陶磁美術館で開かれている。東アジアの酒器約30点を展示。中でも目玉は中国・景德鎮で16世紀に作られた酒瓶（写真右）、なんと重要文化財もある。色鮮やかな孔雀や鳥、細やかな文様表現に、飲む前から酔ってしまいそうな逸品。他にも高麗の酒瓶や江戸時代に作られた古清水（写真左）など、中国、韓国、日本で酒文化が違うように、器に凝らされた趣向の違いにも注目したい。

●12月26日（金）まで 9:30AM～4:30PM（入館）
月曜休 一般入館料500円 ☎06-6223-0055

「島の町会長」とこと中之島連合振興町会長の室谷光彦さん。彼のお店【喫茶店bois】には骨董ものの酒瓶が飾られている。刻まれた文字は「宗是町室谷酒店」。「うちは明治2年から昭和17年まで酒の卸業をしていました。伏見から淀川を下って来る四斗樽を土佐堀川で荷揚げをして販売したと聞いています」という室谷さん。伝聞のため「名前はうろ覚え」だが『若美（じゃくび？）』なる銘柄の発売元もしていたとか。まさに島の地酒。幻の味の詳細は分からなかったが、酒との縁はこんなところにも伝えられていた。



『洋酒天国』なる小さな冊子、読んだことはなくとも、名前を知る人は多いだろう。堂島川のほとりに建つサントリー（当時は壽屋）が昭和31年（1956）から7年余り、トリスバーの常連向けに発行していた広報誌。洋酒や酒場を「文化」へと導く洒脱な内容で人気を集め、最盛期には20万部を誇った。作家の開高健や山口瞳、イラストレーターの柳原良平（アンクルトリスでおなじみの）らが作っていたのだから、誌面の充実は当然か。同社に保管されているバックナンバーを繰ると、竹中郁のエッセイ、鮎川信夫の詩から、「ノーメル賞」創設のお知らせ、編集後記には「買わず、打たず、飲む！」と編集者の意気込みが。『月刊島民』も見習いたい名マガジンである。

「俺も、島民のフリをして、中之島を歩いてみた」

京都で生まれ育つてきただ俺にとって、「リーチバー」は異国の存在だった。

初めて行った時、その重厚さ、静かさ、響き、空気、グラスの音、靴の音、人の気配のすべてに圧倒された。何だかこわかったし緊張した。緊張すべきだと感じた。

京都から、「リーチバー」へ。 バッキー・イノウエ

俺がハタチ過ぎの頃、今から30年近く前。京都で生まれ育つたその当時の若者にとって目茶苦茶無理をして背伸びをして行くことが出来たのが三条寺町の「京都サンボア」。

その当時バーに行くこと自体、決死の覚悟が必要だった。そんな時代のハタチ過ぎの若者が、地元ではない大阪の、老舗ホテルというか巨大ホテルの、まるで結界だけが示されているかのような扉のない一階のバー、しかもまだ夕方にもなってないような飲むことをためらう時間帯、お客様さんは背広、ガイジンさん、そして見たこともないような大人的な女性、そんなバーに足を踏み入れた俺は自分が小僧であることで助かったと思った。言い換えれば小僧な年齢であることを隠れ蓑にした。そんなことを思わせるほどのバーだった。バーなのである。

初めて「リーチバー」に行ったその時に飲んだのはバー・ボン・ウイスキーのロックだった。一緒に行った先輩と同じものを注文して飲んだ。そういえばバーボンの時代だったな。『月刊プレイボーイ』にバーボンの広告がよく出ていた。カーレンボンの広告も多かったな。そ、カーレンボン。ロンサムカウボーイとか。まあいい、とにかく俺は「リーチバー」で萎縮した。

萎縮は酒をうまくする。俺の名言だ。若い頃にそんな極意はもちろんわかっていたなかつたが、その時に飲んだバーボンはとてもうまかった。酒がうまかったということは「リーチバー」に許してもらつたんだと思つて「リーチバー」が多かった。そしてそこではいい話をしてもらつたことしか記憶にない。

それは静かながら低いざわめきがあり、声が通るような通らないような響きがあるこのバーならではの声の出し方と関係があるような気がする。このバーならではの声の出し方を心得て話すことにより、どんな話の内容であつてもトーンが心地よくなったり、グラデーションがつくように余韻を柔らかくするのかも知れない。バーの設えや空気が話の中身を変えてしまふ、なんて素敵なものだろう。もうこのままこの原稿を「あー」と締めくくつて、今すぐ向かいたくなってきた。

ギムレットの甘酸っぱい香りがすぐそこにあるかのようだ。このバーの木煉の床を靴で叩くかのようなコツッコツッという靴音を思い出してきた。ホテルのフロントを横目に見て早足でリーチバーを目指す。ホテルの玄関先では石の上の靴音。中に入ると絨毯で靴音が消え、しばらく歩くと大理石のタイルで高い音の靴音になる。そして結界を超えてバーに入ると靴音が柔らかくなつて響く。木と革が奏でる打楽器か。スツールを引いてカウンターで飲む。日の暮れながらムレット。ミストならばいくらでも飲んでしまう。

そうなるとこの店が出発点になる。「リーチバー」が出発点になつた日は必ず別のバーに行くことになる。「リーチバー」、晩ご飯または居酒屋、バー、スナック、バー、うどんまたはソバ、となる。リーチバーはバーのカテゴリーに入らない。「リーチバー」というカテゴリー。複雑。結論だけ述べる。

京都からまっすぐに向かつたとしても、帰り道は真っ直ぐではない。大阪にはそこら中に磁力がある。引力もある。あー、というしかない。あー。

ぱつきー・いのうえ 本業は京都・錦市場の漬物店【錦・高倉屋】店主であるが、Meets Regional誌をはじめ様々な雑誌に執筆する「酒場ライター」の顔も。酒場で起るふとした瞬間を切り取る「フレーズ」の乱れ打ちに多くのファンを持つ。1959年生まれ。

リーチバー

リーガロイヤルホテル1階。紛れもないホテルのメインバーではあるが、大阪の街の店と同じ口調で話題に上ることが多い。イギリス人陶芸家バーナード・リーチの構想を建築家・吉田五十八が具現したぬくもりある木の空間も数限りなく語られてきた。カクテル1杯1,733円~(税・サ込み)。☎06-6441-0983 11:00AM~0:00AM 無休



川面の灯り、島の夜。

大阪と酒と泪と 大西ユカリ。

大阪、ブルース、酒場の灯…といえば
この人、大西ユカリ。グラス片手に
中之島の夜を語り尽くします。

取材・文／松本創(本誌)



ラジオの生放送を終え、大西ユカリは堂島のABC前にいた。会うのはたぶん3年ぶり。だが、そんな気にさせない。渡辺橋からほたるまちの夕景を眺め、筑前橋を渡つて、たものバー「バッカス俱楽部」へ。かつて「よう飲んでビール1杯」だった酒は、煙草をやめてから増えた、という。ええも悪いも包み隠さず、人を惹きつけて止まぬそのしゃべりは、杯を重ねるごとに速度を緩め、その分、深みを増していく。

大西ユカリと中之島。

大西ユカリは、彼女が率いるバンド名の通り、新世界の住人である。だが、街の性格としては対極にある中之島とも、実は何かと縁が深い。毎週土曜はAB

Cラジオの『大西ユカリのハッスル歌謡曲』に出ているし、9月に発売された『フォーエバー係長のブルース』は、

その名も『中之島レコード』からのリースだ。歌のもとになったラジオドラマ風CMで演じる役名は『堂島ユカリ』。本誌的には『島民シンガー』と認定したいほどなのである。

『中之島・旧きよきサラリーマンがいる街』っていう感じかな。スーツのボケットにさりげなくそそく年筆挿してたり、通勤時はダウンやなしに、頑固にステンカラーのコートを羽織つてたり。新しいものを追うんやなくて、昔からあるものを活かす発想が似合う。(島民編集部のある)ダイビルかてそうやろ』

古いものに新しい息吹を吹き込んでみせるというのは、まさに大西ユカリがやってきたことだ。歌謡曲、スカジ

ヤン、河内音頭、60年代のR&B、大阪縮め…。求めるのはカッコよさだけではない。そこには泥臭い哀愁が強烈に染みついている。

「昔からおるやんか、ちっさいフィルター付けてちびちび煙草吸つてるおつちゃんとか、安い脂っこいもん食べながら中性脂肪には気を使つてますねん、とか。ブルースやな。中之島にもそんなサラリーマンがいてほしい。キレイなだけの街にならんといてほしいな」

『大阪ソウルバラード』コンピレーション
「やっぱ好きやねん」「大阪で生まれた女」「酒と泪と男と女」…。バブル入社組以上の世代なら、題名だけで思わずサビが口について出る、大阪ネオン街の鉄板スタンダード15曲入り。うち5曲が『北新地の帝王』やじきたけじんというのは、さすが。泣いてもエーンやね(涙)。

『大阪ソウルバラード』コンピレーション
「おさむちゃんでーす！」のぽんちおさむは、歌手としても精力的に活動している。雨の夜の酒場で出会った男女のデュエット「おかしな二人」、すちゃらかギター演歌風ブルース「夕陽ヶ丘のかませ犬」の2曲を大西ユカリが提供・客演・懐かしの「恋のぽんちシート」のリメイクも。

『Fall in Love』ぽんち おさむ
「おさむちゃんでーす！」のぽんちおさむは、歌手としても精力的に活動している。雨の夜の酒場で出会った男女のデュエット「おかしな二人」、すちゃらかギター演歌風ブルース「夕陽ヶ丘のかませ犬」の2曲を大西ユカリが提供・客演・懐かしの「恋のぽんちシート」のリメイクも。

『STOMPIN' & BOUNCIN'』
吾妻光良&ザ・スインギン・バッパーズ
結成29年、日本最強のサラリーマン・ビッグバンド。寄る年波を豪快にスインギングに歌う「酔は勝てないぜ」、ワーカホリック諸兄に捧ぐバップナンバー「俺の家は会社」など、傑作サラリーマン歌を収録。拠点は東京だが、大西ユカリのソロアルバムに吾妻氏が曲を提供という縁も。



バッカス俱楽部

海や島を愛し、ハードボイルドに生きた作家へミングウェイの世界を模したバー。筑前橋のたもとにひっそり灯をともして16年。飲み会帰り、独りで締めの1杯が似合う店。☎ 06-6441-5710 7:00PM~0:00AM 日曜休・土曜不定休

働く島民に捧ぐ
酒場のブルース。
大西ユカリ
recommends



『フォーエバー係長のブルース』大西ユカリ

「中之島レコード」の万年係長・堂島ひろし、49歳。会社から「ヒット曲を出さなきゃ」と通告を受け、妻のユカリに泣きつく。実は彼女、25年前にひろしが発掘した元歌手。「アホか、あんた」と毒づきながらも一肌脱ぐ――というラジオCMから生まれた、お父ちゃんへの応援歌。ストレートなシャッフルブルースに、ルース・ブラウンばりのユカリ節が炸裂。傑作のCMも収録。



『大阪ソウルバラード』コンピレーション

「やっぱ好きやねん」「大阪で生まれた女」「酒と泪と男と女」…。バブル入社組以上の世代なら、題名だけで思わずサビが口について出る、大阪ネオン街の鉄板スタンダード15曲入り。うち5曲が『北新地の帝王』やじきたけじんというのは、さすが。泣いてもエーンやね(涙)。



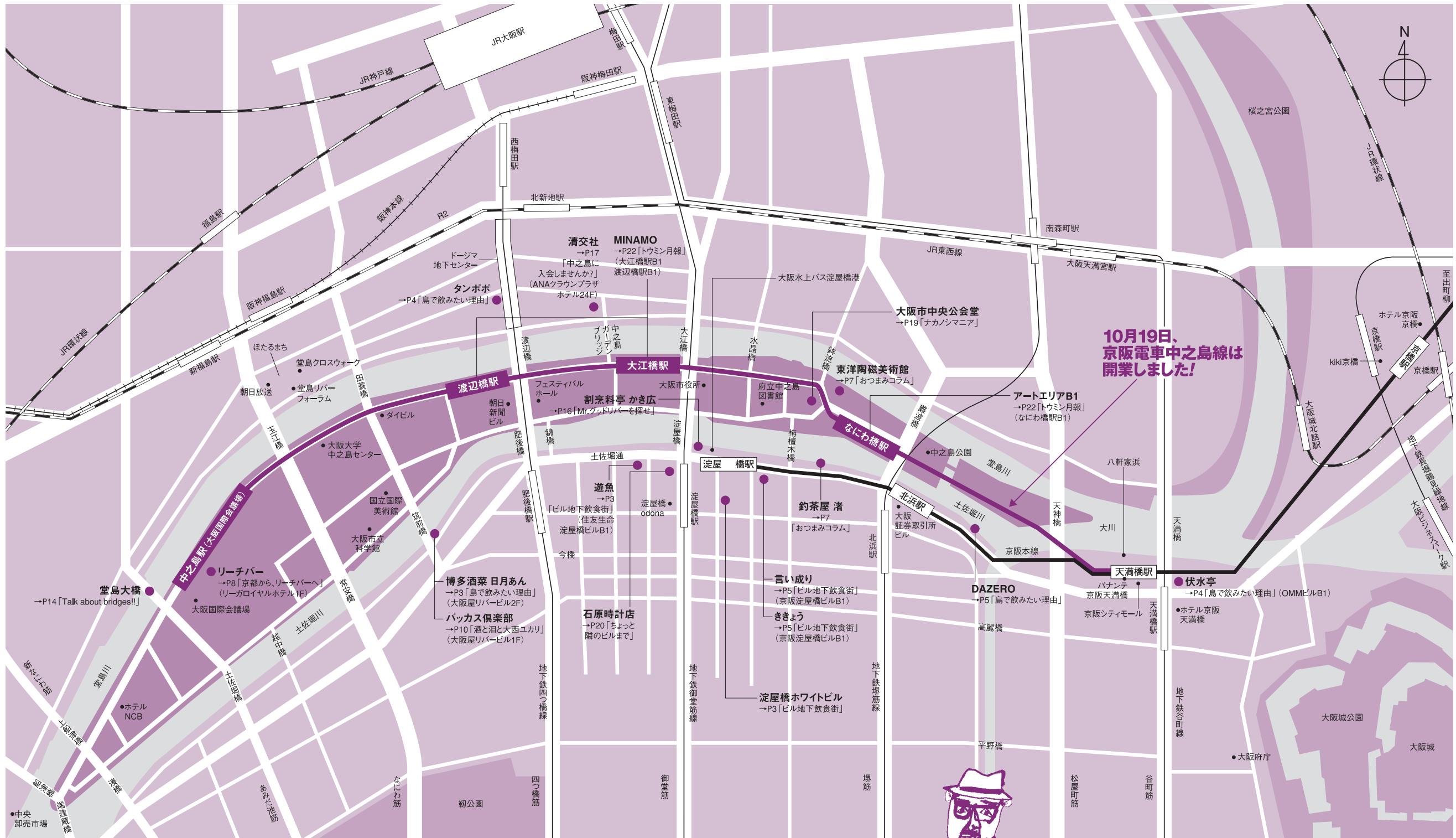
『Fall in Love』ぽんち おさむ

「おさむちゃんでーす！」のぽんちおさむは、歌手としても精力的に活動している。雨の夜の酒場で出会った男女のデュエット「おかしな二人」、すちゃらかギター演歌風ブルース「夕陽ヶ丘のかませ犬」の2曲を大西ユカリが提供・客演・懐かしの「恋のぽんちシート」のリメイクも。



『STOMPIN' & BOUNCIN'』
吾妻光良&ザ・スインギン・バッパーズ

結成29年、日本最強のサラリーマン・ビッグバンド。寄る年波を豪快にスインギングに歌う「酔は勝てないぜ」、ワーカホリック諸兄に捧ぐバップナンバー「俺の家は会社」など、傑作サラリーマン歌を収録。拠点は東京だが、大西ユカリのソロアルバムに吾妻氏が曲を提供という縁も。



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です!

平塚桂（以下、桂）この橋のデザインには、**武田五一**が関係しています。

たかぎみ江（以下、み江）なんだよその関係してる、という曖昧な表現は。

桂 このころ生まれた橋のほとんどは、誰がどこまでデザインしたのか、よくわからないんですね。だいたい技術的なことは**堀威夫**が主に担当してて、意匠設計も武田の指導のもと、弟子の

元良熟が実働していたらしい。

み江 完成は1927年。実は結構古いんですね。

桂 しかも現存する唯一の**非タイド下路アーチ橋**というのが珍しい。

み江 何ですかその呪文は？

桂 下路アーチとは、アーチが路面上より上に突き出ているもの。桁下がすつきりするので周囲が低地でも航路を確保しやすいです。そのアーチの両端を引張材で弓のように結んで補強しているのがタイドアーチ。構造的に有利なので、当時アーチ橋の主流になりつつあった形式です。大阪でも、その2年後にできた**桜宮橋**はタイドアーチです。

み江 要は橋梁技術革新の歴史の証人なわけですね。その割に少し存在感が薄いような気がするけども。

桂 残念ですね。かなりおもしろい橋なのですが。

み江 まず鋼製アーチを引き立てるのが、両端の石積みアーチですよね。

桂 このアーチ型の橋台は、川沿いの

のに、なぜかうまく融合しています。

み江 パスタを明太子であえたたら美味しかった、みたいな。

桂 あまり深く考えて組み合わせて無さそうですね。歩道を歩いてみるとわかるけど、道路からアーチが生えてるみたいで、かなりシユールです。

み江 クセのある2つの食材を組み合わせる場合、何かツナギになるものを入れたりするけど、この場合緩衝材となるものが全く見当たらない。

桂 むちゅくちや豪快に料理してあるのになぜか美味。これが計算すぐだった、かなりすごい。

み江 でも様式の達人、武田五一が関わっているだけに、わからないですよ。

桂 あらゆる最新流行のデザインを、強引かつ上手く融合させた方ですから。

み江 和洋中華ミックス当たり前のこと、創作無国籍料理のシェフ的建築家。

桂 鋼製アーチも石のアーチも、あまり余計な味付けをしていないから合っているのかも知れません。

み江 それぞれのアーチ自体のデザインが、微妙にユルいですね。

桂 橋にツキモノの躍動感というか構造やデザインを見せつける”オラオラ”

鋼アーチ。鋼材部分は大阪鉄工所（後の日立造船）が製作・施工した。

川の中に設置された鉄筋コンクリートの橋台。

歩道と車道を垂直の鋼材が、ゆるやかに隔てており、歩きやすい。

堂島大橋の個性的な橋詰め。壁で囲まれ、噴水のような跡が見える。

Talk about bridges!! 橋の話をしよう⑤

堂島大橋

文／ほむ企画
絵／網本武雄（本誌）

堂島大橋

1927年完成。中之島の西端部、あみだ池筋に架かる橋。鉄筋コンクリート造の橋台が両岸から持ち出し、中央部に鉄骨のアーチが架かる。照明灯のデザインや鋼アーチの色味は竣工時とは異なる。お隣の国際会議場は黒川紀章設計。全長76.12m。

道路への工事の影響を少なくするために設けられたそうです。俗に**復興局型**と呼ばれるタイプですね。

み江 橋詰のあたりに注目。物々しい階段の上に噴水らしき跡も残っていて、古典的な趣です。

桂 意匠は「イタリアン・ロマネスクに影響せられたる近世式」（『土木建築工事画報』昭和3年2月号）だそうです。

み江 構造むき出しの未来志向な鋼アーチと、落ち着いた古典様式とのコントラストがおもしろい。

桂 すごく強引な組み合わせに見えるにも見えるけどね。

み江 ほむさん、たかぎみ江、平塚桂の2人による建築系の勢いはないですね。新技術や様式を扱っている割に肩の力が抜けている。

み江 素材を塩茹でしてアグを抜いてから調理した、みたいな感じ。

桂 味のバランスがいいんですね。

み江 まあ、「テキトウに料理したようにも見えるけどね。

桂 ほむさん、たかぎみ江、平塚桂の2人による建築系の勢いはないですね。新技術や様式を扱っている割に肩の力が抜けている。

み江 素材を塩茹でしてアグを抜いてから調理した、みたいな感じ。

桂 味のバランスがいいんですね。

Will you join us?
中之島に「入会」しませんか?
取材・文／石原 卓(本誌)



撞球同好会の（左から）菊田光男さん、長田義昭さん。30年選手の長田さんは、「むかしは象牙の球でやってたんやけどなあ」。囲碁同好会の講師には初代総理大臣が！

number. 0004

清交社

地の利を活かした、合理派社交俱楽部。



◎入会資格
社員2名の推薦が必要。定例の午餐会をはじめ、観劇会や、同好諸会の催しが連日活発に行われている。ホテルでの様々な会員特典も、社員にとっては魅力的です。常務理事の西郷新一さん。「今の時代にクラブなんて過去の遺物だ、という意見もありますが、今だからこそ、心の栄養のためには重要。昔の北新地ならではの、良い意味での大らかさをずっと提供していきましたね」と笑う。
関西エヌブリッジメントの往年の自由な精神を今も残す老舗が清交社だ。



本館には囲碁室や仮眠コーナー付き図書室。地下1階の別館にはビリヤード場やカラオケ室があり、各同好会主催の行事や音楽鑑賞にも使われる。地下にはバーもあり、ここで軽くお酒をひっかけてから北新地へ、という粋な会員も。

ふりがな 氏名	よしみ 吉見三千夫さん	みちお [割烹料亭 かき広] 店主	ふりがな かっぽうりょうとういかひろ
------------	----------------	----------------------	-----------------------

昭和27年 宮崎県で次男として生まれる
経歴 昭和45年 就職のために大阪へ。道路や橋などの設計の仕事に就く
平成元年 【かき広】の先代の娘さんと知り合い、結婚。会社勤めをしながら修行を積む
平成16年 先代の引退を機にお店に立つようになる。主に座敷に出す料理を担当



江戸時代末期、広島から船で大阪へ牡蠣を売りに来る人たちがいた。そうするうちに、船上で牡蠣を料理して食べさせ



る船が出始める。これが、牡蠣船の始まりだ。明治には百隻ほどの牡蠣船が大阪にはあったらしく、古い絵葉書でもその様子を見たことがある。しかし、昭和20年代には十数隻に、今は一隻だけが大阪の川に残る。その【かき広】の三代目店主が吉見三千夫さんだ。

場所は淀屋橋の南詰。土佐堀川に浮かぶ超一等地（一等水？）だ。お祖父さんの時代に広島から大阪へ。さすがに今は行き来することはなく、この地で年中営業している。店は川の上に杭で固定されたカウンター席の小屋と、5部屋の座敷がある屋形船からなる。桂三枝さんなど、訪れた著名人の写真とサインが店内の壁に掛かかる。「でも私は厨房に入ってるんで、

虫が多い夏より、
今の季節が
お薦めですよ。
(吉見)

あまり顔を合わさないんだよ
ねえ」と、吉見さん。

料理は当然、牡蠣鍋を中心。



牡蠣船を、
ぜひ宿としても
使ってみたいなあ。
(中谷)



ここはやはり座敷で牡蠣を食したい。その昔、遠く広島から運ばれてきた牡蠣を喰らいながら、広島弁と大阪弁でさまざまな会話が弾んだことだろう。居ながらにして旅行気分が味わえる、贅沢で風流な時間があったに違いない。畳に座して木の手摺りに肘をかけ

てみると、今も、水面近くから川を眺めていると、ここがオフィス街のど真ん中とは思えない。

さて、そんな島の文化遺産も、こちらが廃業すれば大阪から消滅する。「新規の参入は認められず、第三者へ店の譲渡もできない」らしい。えー、それじゃ水都大阪の看板が泣いちまう。かき船の存続だけでなく、「オイスター」（現代版のかき船？）の開業も認めるべし。水の都で牡蠣を食い倒れ！ オレはそんな大阪が幸せじゃ。

店紹介 接待など会使いのお客さんが多いそうだが、カウンター席で昼は鰻や定食、夜も一品があるので島民はぜひ通うべし。かきフライ1,500円、かきご飯1,500円、かき料理・鍋コース（1人前）6,000円～。☎06-6231-1891 11:30AM～2:00PM 5:00PM～10:00PM 日曜休（祝日不定休）

なかに・のぼる 建築家、住宅リノベーション集団「アートアンドクラフト」代表。「NPO水辺のまち再生プロジェクト」の発起人でもあり、暮らしにも観光にももっと川を利用しようと呼びかける、自らも「グッドリバー」な熱血漢。

●質問その一

思うところがあり、知人と一人でお遍路に出かけました。

般若心経を写経し、納めることは知っていましたが、「心構えがなつてない」と散々な言いようでした。

しかし、後日知人が書いた写経を見せてもらうと、お経の数が足らなかつた私に、知人は「心構えがなつてない」と散々な言いようでした。

お経といふより「果たし状」と呼びたいくらい乱雑で、書式も我流でした。仏様も驚かれると思います。

お経を書き写すことと仏教はどんな関係があるのでしよう?

(商社派遣・女・34歳)

「ちよつと积せんせに聞いてみよか」



●質問その二

現役ばかりのお坊さんが島民たちの悩み 疑問にお答え。

へえー仏教って意外と「使える」やん!

先日、10歳ほど年下の友達数人集まつてある時に、そのうちの一人が「もうすぐ30歳、オバサンやわ」と何気なく言った後で私の年齢に気がつき、その場の全員に「すみません!」と平謝りされました。あまり何度も謝られたので、私がいることで窮屈な思いをさせているのでは? と不安になりました。どうして人はこうも年齢を気にするのでしょうか。歳を重ねることは悪いことではないと思うのですが。

(メーカー・女・37歳)

自 由 山



五 言 法



法

●解答

加齢が気になるのは、状況との関係が大きな要因です(30~40歳代じや漣垂れ小僧、という領域はたくさんあります)。

しかし、加齢への不安は、生理的レベルで生じる部分もあります。「老い」は「病」「死」と並んで三大苦惱のひとつです。そこで、今回は二つ方向性を提案します。ひとつは「諦める」ことです。「引き受ける」と言つた方がいいでしょうか。年齢も含めて、それが自分だと引き受けれる。他者からの判断に振り回されてはいけません。「自分の姿を諦らかに観する(諦める)」のです。もうひとつは、「加齢した人が好きになる」というルートです。高齢者との距離が近い日常を送れば、

●仏教用語の処方箋

薰習(くんじゅう)

行為や思考が(ちょっと匂いが染みつくように)次第に影響を及ぼす、心身から素敵なお香りが発せられるようになるんです。

質問募集 このコーナーでは創設宗先生への質問を募集しています。職場での人間関係の悩み、家庭生活の中のふとした疑問などなんでもけつこうです。メールもしくはファックスにてお待ちしております。e-mail:uketsuke@140bj.jp Fax:06-6445-2106

●解答

わははは。爆笑しちゃった。「果たし状」古来、多くの宗教において、「聖典を読誦する」「聖典を写す」という行為は、大切な宗教的実践と考えられてきました。仏教も同じです。

もともと、教えを写すことは、その宗教を心身で学ぶことであり、宗教体験を追跡・再現することで体が宗教的行為となつたのに違ひありません。

『法華經』には「子供が指で仏像を描いたって、すばらしいことなのだ」と述べられています。無心で「ただ描く」「ただ書く」ことを理想としているからかもね。

感應同交(かんのうどうこう)

私は、心のおもむくまま筆を走らせて字を書いたり、線描したりするのもいいと思っています。仏教は自分の心身を点検することを重視しますから、自分のイメージを表現するのは悪くありません。グルグル渦巻きを描くとか、でかい字を一文字書くなんてのもいいと思います。というわけで、「果たし状」みたいな写経もOK!

●仏教用語の処方箋

けつこう

「老い」に対しての感覚が変化しますから。

介護の奉仕活動に関わる、なんていうのも良いかもしません。とにかくアンチエイジングだけじゃなく、豊かな「老い」の物語にも耳を傾けることです。まずは、映画『東京物語』の笠智衆と、『阿弥陀堂だより』の北林谷栄を一度ご覧ください。

けつこう「老い」に対する感覚が変化しますから。志を汲みとり、朝陽に入る部屋に日本のあけぼのを表現した。これを「新しい時代の到来に重ねたと見るのは考え

中央公会堂のココロは「天和魂」に満ちていた。

ナカノ・シマニア

取材・文／網本武雄(本誌)



香り立つような風格漂う大集会室は、ガガーリンやヘレンケラーも登壇したという。まさに大阪の応接間。



ダンスパーティーや音楽会に人気の中集会室。帆船を描いたステンドグラスは、水都・大阪がテーマ。



伊弉諾岐尊(上)、伊弉諾美尊(中)、あまつかみから天の鉾を受け取り、國づくりをする場面を描いた「天地開闢」。ピカソやルノアールの絵画を修復した杉浦勉の手により、見事に鮮やかさを取り戻した。見学会は不定期で開催(抽選制)。通常、利用可能なのは地下1階の岩本記念室とレストランのみなので、機会があればご参加を。☎06-6208-2002(大阪市中央公会堂)

全国的に見て最も貴重なもの」と語る。描いたのは、明治期を代表する洋画家の一人、松岡壽。通常、天井画は漆喰に直接描かれるが、中央公会堂では漆喰

の北面には、商いの神・素戔嗚尊が、南面には工の神・太玉命が、西面には浪速を都と定めた仁徳天皇にちなんだ絵が描かれている。古代から近代への流れを表した壁面部分と、天井画はそのまま空として描いた。天井画はまるでひとつの作品のようだ。

中央公会堂の保存・再生プロジェクトに深く関わってきた大阪芸術大学の山形政昭教授は、「この部屋こそ、中央公会堂の粹を集めたものであり、その一人、松岡壽。通常、天井画は漆喰

の上にキャンバスを貼り、油絵として描かれている。松岡がこの絵を描いた大正期の美術界は、明治初期の文明開化から一転、日本の伝統回帰が叫ばれていた時代。「天井画を油絵で描いたのは、飽くまでも洋画家として日本を描くことに努めた結果でしょう」。

東面には、大阪市章をデザインした組み込んだステンドグラスがある。これには、意匠的過ぎだろうか。

いざなみのみこと
伊弉諾岐尊(上)、伊弉諾美尊(中)
から天の鉾を受け取り、國づくりをする場面を描いた「天地開闢」。ピカソやルノアールの絵画を修復した杉浦勉の手により、見事に鮮やかさを取り戻した。見学会は不定期で開催(抽選制)。通常、利用可能なのは地下1階の岩本記念室とレストランのみなので、機会があればご参加を。☎06-6208-2002(大阪市中央公会堂)

上方講談師・旭堂南海の
シマノネタ 第五回

大坂の代表的文人・井原西鶴。「好色」
モノを始め数々の本を出版したが、一
番読まれたのは『日本永代藏』らしい。
この本には西鶴が集めた諸国の大「金
持ち」が、如何にして財を得たかが記
してある。中で、大坂の北浜にいた一
人のブサイクな女の話は非常に面白い。
こんな話である。

北浜には大名の蔵敷が並んでいた。
九州の大名から多くの米が蔵へ運ばれる。
役人が竹筒を米俵に突っ込み、中の米
を検査する。竹筒から米粒がバラバラと
落ちる。が、そんな米には目もくれない。
すると、一人のブサイクな女がこぼ
れ米を箒で集めだした。亭主を亡くし
てからは再婚できず、一人息子をこぼ
れ米で育てていた。皆は哀れんだ。でも、
女は必死だ。こぼれ米しか目に入らない。
そのうちに、年貢米が一気に北浜へ
入ってきた。役人たちちはテンヤワニや。
こぼれ米は一気に増えた。女はしゃか
りきに掃き集めた。朝夕にその米を食
べても月末には一斗以上も残った。女
は節約に努め、毎年毎年、北浜のこぼ
ようぞ。

井原西鶴を唸らせた 北浜の「もつたいない婆さん」。

大坂の米を掃き集めた。20年かかって女は
12貫以上も貯蓄した。

もちろん、俺も遊んではいる。米
俵には「小口俵」という藁の蓋が付い
ている。北浜にはこの蓋が無数に捨て
られていた。それを毎日拾い、穴あき
銭を通す紐(銭さし)に替えて売った。

俺は母の蓄えと合わせ、今橋に小さな両替店を出した。近くに八軒家があり、
田舎から船で大阪へ出てきた人で繁昌
した。母の背中を見ていた俺の眼力は
確かであった。そして、10年もせぬう
ちに大名と取引をするまで出世をし
た…というものである。今なら「もつ
たいない婆さん」というであろう。

『日本永代藏』の一番最後は、このよ
うな逸話を本にしたのは、後の人たちがこ
れを読めば大いに役に立つと思ったか
らであると、西鶴の思いで締めくくら
れている。

後の人とは私たちのこと。「金がない」と嘆くなら、御同輩! 北浜へまずは参ろうぞ。そして、智慧を絞って考え
ようぞ。

諸国をめぐりけるに、
今もまだかせいで
見るべき所は大坂北浜、
流れありく銀もありといへり

(『日本永代藏』卷二 浪風静かに神通丸北浜に筈の神をまつる女 より抜粋)

きょくどう・なんかい
1964年 兵庫県加古川市生まれ。大阪大学卒業
前(1989年)に三代目旭堂南海に弟子入り。1
998年大阪市より「咲くやこの花賞」授賞。得意
ネタに「太閤記」「難波戦記」「浪花侠客伝」「天
満宮靈験記」など。

大坂の代表的文人・井原西鶴。「好色」
モノを始め数々の本を出版したが、一
番読まれたのは『日本永代藏』らしい。

第五回

ちあと、隣のビルまで。
取材・文/松本創(本誌)

[石原時計店]@石原ビルディング

ビジネス街の
時を刻む
のっぽの古時計。

淀屋橋南詰に建つ石原ビ
ルディングは、大阪のビジネ
ス街へのゲートのような存在
だ。戦前からこの地にあって、
中之島へ御堂筋へ行き交う
サラリーマンたちを見続け
てきた。

1階の[石原時計店]も、
さぞ有名な財界人や名士が
上得意なのだろうと思いや、
「うちは特定のお得意より、
できるだけ多くの人に時計を身に着けてもらうという
方針でやってきたんですわ」と石原実社長。若いサラ
リーマンがボーナスをアテに憧れの高級時計を見に来
たり、上司の昇任祝いを部下たちが選んだりといった
光景が、かつてはよく見られたという。

その石原社長、前号でも紹介した通り、手塚治虫の
小学校時代の同級生。「根っからのエンジニアで、作
文に機械の話ばかり書いていた」と手塚がエッセイで
回想する少年は、80歳になるいまも、創業160余年の
老舗の4代目として現役である。

最上階のペントハウスになっている社長室を訪ねると、
身長よりも高い柱時計があった。明治の半ば、2代目
の頃から受け継がれてきた標準時計だそうだ。「振り
子は水銀製の分銅で、長さもあるから時間が狂いにくい。
うちの時計はみなこれで合わせたんです」。

窓から見える街の風景は変転しても、黙々と時を刻
み続ける古時計。そう、この社長室は橋を渡る「島民」
を見守る時計塔のような場所なのである。

石原時計店

弘化3年(1846)、南久宝寺町で創業した関西屈指の老舗。移転・戦時の
休業を挟み、昭和38年から現店舗で営業。かつてはオリジナルブランド
「クリセント」も扱っていた。8月に改装したばかり。☎06-6231-1726
11:00AM~8:00PM 日曜休



年代を感じさせぬほど磨き上げられた英國製の柱時計。エレベーターは手動式だった当時の面影を残している。



ハイカラ好きだった3代目が手掛けたビルの設計図や、古い広告など貴重な史料が大切に保管されている。



店の奥には、南久宝寺町、心斎橋南詰など歴代店舗の絵や写真が飾られている。

トウミニン月報

や〇しで盛り上がっている様様。朝7時から夜は11時まで、時間帯限定のメニューも多く、好きな時間に好きなように使えるというのは確かにありがたい。

一方、大江橋駅には駅改札前に新刊と古本を扱う「天牛堺書店」が。

ワゴンの古本コーナーが通勤客の目を引いている。毎日の通勤時間が古本市までジャンルを問わない良書づくし。4日に一度、総入れ替えされ、100~5千円均一のセールが行われている。毎日の通勤時間が古本市になったというわけだ。

(森あきひこ)

みんなもう
「ミナモ」は行つた？



中之島線の開業とともに、渡辺橋・大江橋の駅構内にオープンした飲食＆ショッピングゾーン「MINAMO」(ミナモ)。名前は同じだが、中身はすでに違つ。

まずは渡辺橋駅から。焼酎バー、ワインバーなど、流行りのバールースタイルが多数揃つていて。たとえばイタリアンの「イルバール・ディブント」は運日若いサラリーマン

今年は因ても進出！
光のルネサンス

今月1日から始まった「OSAKA光のルネサンス」。中之島の各所

がイルミネーションに包まれる、という説明はもはや不要か。ただ、今までちょっと残念だったのが、会場が島の東部に固まっていたこと。少し足を伸ばせば…と分かつてはいてもビル風の吹く寒さに駆へと急いでいたウエスタン島民も多かった。が、今年からは大阪市立科学館の北側広場にもエリアを拡大。かつて中之島に蔵屋敷があつたご縁で、鳥取市の「砂の美術館」からサンドアートが出張するほか、音楽ライブなども行われる模様。歩くのが寒ければ、そうだ、中之島線でゆこう！

(大迫 力・本誌)



府立中之島図書館のウォールタペストリー



中之島駅イルミネーションコンコース



サイレントナイト・サンドファンタジー～鳥取・砂の彫刻～

日時／12月1日(月)～12月25日(木) 5:00PM～10:00PM(12月1日は点灯式のため5:30PM～)
主な会場／大阪市立科学館、府立中之島図書館、市立中之島駅コンコース
ライトアップ箇所／大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル、国立国際美術館、関電ビル
日本銀行大阪支店、大阪市中央公会堂、八軒家浜
※12月1日(月)～12月12日(金)は一部の点灯のみ。メインパフォーマンスは12月13日(土)～12月25日(木)

タイトルを見れば、身の回りにあるモノのデザインを考える「デザインカフェ」、映像作品を鑑賞したり実際に制作したりする「カフェエマジュ」、またダンスパフォーマンスなども。「月刊島民」的に注目なのは、金曜日を中心に行われている「中之島哲学コレージュ」か。中之島にもゆかりの深い大阪大学の大学院臨床哲學研究室などが関わっており、哲学や書評など硬派なテーマを会社帰りにでも聞きたく、それでいて「アート」や「知」をテーマにさまざまなプログラムを開催。これまでに開かれた

「MINAMO」と同じく、中之島線開業に合わせてなにわ橋駅地下1階にオープンしたのが「アートエリアB1」だ。ここでは「アート」や「知」をテーマにさまざまなプロ

グラムを開催。これまでに開かれた

タансが新鮮だ。12月12日のテーマはジャワ舞踏家と理学療法士によるショップ「からだは考える」など。ぶらり途中下車で、哲学まで学べるのが中之島スタイルだ。

(大迫 力・本誌)

次号予告

古来、大阪の重要な地点であった中之島は、さまざまな歴史のターニングポイントとなってきた。政治・経済・文化・風俗。島民の生活の舞台は、歴史の舞台でもあった。いつも歩くその道も、大阪の歴史の延長であることを知ろう！

●『月刊 島民』vol.6は2009年1月1日発行です！

その時、中之島が動いた。

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作／網本武雄
(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫力(編集集団140B)
〒530-6591
大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル140B
Tel.06-6445-2105 Fax.06-6445-2106
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

配布にご協力いただける方を募集しております！

(島外の方でも大歓迎！)

阪電電車主要駅／阪急シティモール／阪急モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋／ブックファースト梅田店／旭屋書店本店／旭屋書店梅田地下街店／旭屋書店堂島地下街店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルシングラザ店／リプロ 梅田阪神店／ブックファースト淀屋橋店／文教堂書店淀屋橋店／福家書店 淀屋橋店／天牛堺書店 大江橋店／紀伊國屋書店 本町店／ジュンク堂書店 天満橋店／アバンティBC OMMIビル店／紀伊國屋書店 京橋店／府立中之島図書館／専門学校中の島美術学院／朝日カルチャーセンター／大阪大学中之島センター／大阪俱楽部／大阪国際会議場／市立住まい情報センター／大阪商工会議所／宗是そば／喫茶 大大阪／ネイルサロンスワンナ／N4タワー マンションパビリオン／ホテルNCB／ザ・メロディ／なんば書店カルチャーコーナー／その他、取材協力先



積せんせ、今度僕の相談にのつて下さい！

「紀伊國屋書店京橋店」の岸本拓馬さん

こころまちつくろう



京阪電車

月刊島民 中之島

5号 2009年12月1日発行

編集・発行人／江弘毅(140B)

編集・発行／月刊島民プレス

〒530-6591 大阪市北区中之島3-6-32

ダイビル140B

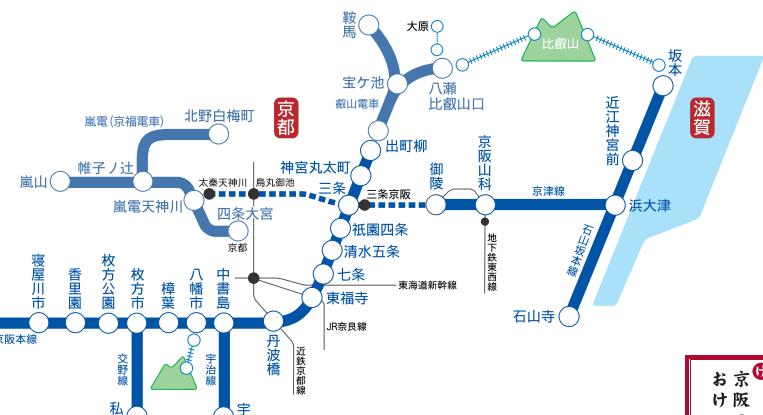
定価0円

Printed in Japan

のっていきましょ、 京都のええとこ。



中之島線
Nakanoshima Line



京阪の
おかげはん。

京阪電車お客様センター ☎ 06-6945-4560 ※お掛け間違いのないようにお願いします。

[平日] 9時～19時 [土休日] 9時～17時 ※12月30日～翌年1月3日は休業

おかげはん 検索
www.okeihan.net